

## 「流産および分娩後に子宮内に遺残組織を認められた拳児希望患者に対するコホート研究」

### 研究実施のお知らせ

#### 1. 研究の対象となる方

2010年1月1日から2028年11月30日まで間に、当院で管理した流産および分娩後に子宮内に遺残組織が認められた拳児希望のある方。

#### 2. 研究期間

研究機関の長の許可日 ～ 2028年12月31日

#### 3. 試料・情報の利用及び提供を開始する予定日

利用開始予定日：2024年1月1日

#### 4. 研究の目的

近年、増加している生殖補助医療による妊娠においては、胎盤の位置異常や癒着胎盤を起こすリスクが増加し、流産後や分娩後に妊娠組織の遺残を認める頻度が増えております。子宮内の遺残組織は、突然の大出血を起こすことがあり、またその後の不妊症や流産の温床にもなることから、適切な管理と治療が求められますが、その管理方法はまだ定まっておりません。経過観察で自然に胎盤が娩出されることもありますが、大量出血をきたした場合は緊急で子宮動脈塞栓術や子宮全摘出術などが必要になる場合がありますが、これらの方法は、妊娠する能力（妊孕性）を下げてしまうデメリットがあります。子宮内遺残を来した患者様の中には、次回の妊娠を希望している方も多く、妊孕性温存のためには、より低侵襲な治療方法が求められています。今回の研究は、当院で妊娠組織の子宮内遺残と診断された方の臨床データや画像所見をもとに、大量出血や出血リスクの低下に関連する因子や妊孕性温存に寄与する因子を明らかにし、より安全で低侵襲な治療法を見つけることを目的としています。

#### 5. 研究の方法

拳児希望があり山梨大学医学部附属病院産婦人科へ受診され、流産および分娩後に子宮内に遺残組織が認められた方を対象に、臨床経過をフォローさせていただきます。その中で、保存的治療や外科的治療がどのような症例に有効であるか、また大量出血リスク因子や出血量を制御できる因子の同定、その後の妊娠、分娩に良い影響を与える因子などを、診療録から多くの方の情報を集めて、解析し、最適な管理方法を見出していきます。

#### 6. 研究に用いる試料・情報の項目

情報：診療録情報、検査データ

試料：該当なし

## 7. 外部への試料・情報の提供

該当なし

## 8. 研究組織

【研究責任者】

山梨大学医学部産婦人科学講座 教授 吉野 修

## 9. 試料・情報の管理について責任を有する者

山梨大学

## 10. 個人情報の取扱いについて

研究者等は、研究対象者の個人情報保護について、適用される法令、条例を遵守します。また、研究対象者の個人情報およびプライバシー保護に最大限の努力を払い、本研究を行う上で知り得た個人情報を漏らすことはありません。

## 11. 利益相反について

本研究は、研究費用は発生しません。この研究に関して開示すべき利益相反関係はありません。

## 12. お問い合わせ等について

本研究に関してご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望により、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書や関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。

また、本研究に試料・情報が用いられることについてご了承いただけない場合は研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも不利益が生じることはありません。

<照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

山梨大学医学部産婦人科学講座

特任助教 笹津 聡子

メールアドレス：ksatoko@yamanashi.ac.jp

FAX：055-273-8719